

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771500752		
法人名	医療法人社団 有隣会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	香川県綾歌郡綾川町滝宮555番地5		
自己評価作成日	平成22年7月30日	評価結果市町受理日	平成21年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771500752&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771500752&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成22年9月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が隣接している為、医療連携・協力が受けやすい。入居者様の状況により、訪問看護や理学療法士による訪問リハビリなど受けることができる。小学校も近隣にあり、立地条件にも恵まれている。生活の中では、食事の準備を入居者様と一緒に取り組んでいる。お茶のお点前や沖縄三線・手品・バルーンアートなど地域のボランティアの方々との協力を得ている
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

開設当初からの理念目標に沿って利用者の生活支援に取り組み、心癒すケアに繋げようと職員が話し合い協力している様子がうかがえ、利用者の表情が穏やかであった。また、記録類が介護記録をはじめ研修記録、各種のマニュアルに至るまで整理され、いつでも確認できるようにしている。 法人施設全体が一画に集合して立地し、中心が地域と密着した医療機関であるため、地域との連携が図りやすくスムーズな交流がなされている。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームさくら(1)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は利用者のその人らしい尊厳ある暮らしを支援するため、日々のケアの場面で共有し具体的な理念の実践に取り組んでいる。	法人全体の理念目標を研修時や、カンファレンスで適時話し合い、声かけ・見守り・かかわりと日々の場面で理念に沿って、具体的に取り組む努力がなされている。	毎年の教育委員による技術指導や自己評価、面接の機会を活かして、理念を反映した実践についての振り返りも含む取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや老人会、自治会、文化祭、小学校の運動会などの行事に参加している。また、認知症の理解を深めるために介護教室を開いたり、郵便局での利用者の作品展は毎年恒例になっている。利用者の行事参加には体力やペースなどを考慮し意向に沿いながら地域との交流に努めている。	地域の各種団体の行事や小学校、ボランティア等との交流はスムーズに定期的に行われ、利用者の作品を郵便局に展示するなど、積極的に取り組む努力がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会、ゲートボール大会の見学に行き、参加者にグループホームの理解を求めたり地域の溝掃除に参加し、交流に努めている。また毎年7,8月頃地元郵便局にて有隣会合同の作品展を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの現状報告をしたり情報交換や参加者が意見や思いを伝える機会を設けている。運営推進会議で課題ができ、改善やサービス向上に活かせるように取り組んでいる。	事業所の現状報告に加えて家族会議、参加者の意見や要望を元にサービス向上につながる検討がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は、町の担当職員と運営推進会議以外にも、相談や意見交換をして、連携が取れる関係作りに努めている。	担当の職員との連携はスムーズであり、制度に関する内容確認、認定調査に関することなど気軽に相談したり確認できる連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解するように努め拘束のないケアをめざしている。徘徊、傾向の入居者がいるため玄関の施錠をしている。入居者の家族に理解してもらっている。	職員は拘束による利用者の弊害は理解しながら玄関の施錠をしているが、室内では利用者に寄り添い楽しめる時間を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	さくらの中で高齢者虐待防止法について資料を配り、各自で理解を深めている。また、朝のカンファレンスなどで入居者対応(声かけのしかたは適切か?対応はきちんとできているか?)について話し合いをしている。		

グループホームさくら（1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護実践スタッフは順次研修会等に参加し、知識を深めるように努力している。また、相談があったときには近隣の介護支援事業所に相談できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前には必ずホームの見学をしていただき、十分に説明を行い理解・納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時や家族会等の集まる機会に意見・要望などをアンケートで聞くようにしている。また、些細なことでも、スタッフの対応について話し合いホームの質の向上に努めている。苦情・相談窓口を設置し、24時間体制で対応している。	年2回の家族会は出席率も良い。アンケートで家族の満足度、気がかりな点や要望などを聞き入れ検討改善している。職員が名札を着けたのも検討した結果である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや必要時にはスタッフ間で臨時のカンファレンスを開くようにしてスタッフの意見を聞けるように配慮している。	月1回代表者を交えてカンファレンスを開き職員の意見を吸い上げる機会がある。また職員も意見が言える雰囲気があり、提案した意見や要望には真剣に検討してもらえ、仕事の意欲につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの、得意分野、不得意分野を聞き、得意分野は、業務の中で、努力して積極的に取り組み、やりがいもてるように職場環境を整え、指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1回の法人内で有隣会全体会議があり、その中で随時研修を行っている。また年間計画書を作成し、職種に応じて適宜研修に参加している。新人研修についてもチェックシートを活用して管理者と職員で意見交換しながら取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の主催する介護教室などに参加し、サービスの質の向上に努めている。		

グループホームさくら（1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には必ずホームの見学をしてもらい、また、管理者、計画作成担当者が必ず訪問し、さくらでの生活の意向を家族、本人から聞き入れるようにに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ずインテークを行い、意向を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学、インテークにて、また、場合によっては他の事業者のケアマネジャーとも連携し、さくら入居が本当にふさわしいかを見極めている。さらに入居判定委員会を必ず開催し、他職種から意見を聞き入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが入居者の悩みを聞いたり、表情が暗い時には居室におもむき話を傾聴するなど、寄り添いながら生活するように心がけている。また、お寿司の作り方などをスタッフが逆に相談にいたりなど、双方で支えあって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や季節などに参加してもらうなどして馴染みの関係を築き、なにかあればすぐに電話で相談するなど、本人を共に支えていく関係にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望に合わせて連絡するようにしている。連絡を取りたそうにしている時はスタッフから声かけして連絡を取っている。また、外出の時など昔住んでいた近隣をドライブするなどして配慮している。面会時の対応の支援を行っている。	利用者や家族の希望に合わせて対応している。近所の方の訪問や馴染みの方が訪れ、楽しい時間を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が孤立しないように一日何回か、集団体操やレクリエーションを取り入れ、閉じこもり、孤立を予防している。また、おやつや食事などなるべくホールで摂ってもらうようにしている。		

グループホームさくら（1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も時々電話連絡をして、状況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新聞が読みたい入居者には家族と相談の上、新聞を配達してもらうなど、入居者の意向を柔軟に聞き入れ対応している。また、預かり金から、欲しいものを聴き、購入し、趣味で使う道具やお菓子などスタッフが購入してくることもある。	家族や本人の希望を聞き入れレクリエーション、外出、家事参加の様子を把握し、次回に働きかけのチャンスにしたり、希望の出ない利用者には無理強いではなく本人の希望を取り入れながら検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の状況は入居前にきちんと把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時カンファレンスなどで利用者の嗜好品や趣味などについて話し合っており、出来ることを見つけて少しでも参加してもらうように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やミニカンファレンスなどを設け、本人やご家族の意向を取り入れ、その都度検討しながら、柔軟に対応している。毎月のモニタリング、6カ月ごと又は随時アセスメント表を用いて、ケアプランの見直しに活かしている。	日々の生活記録が丁寧に記され、担当者による1カ月単位のモニタリング、定期的なアセスメントが行われている。ケアプランは介護支援専門員が中心となり担当者、本人、家族の希望を活かし、現状に即したものにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個別対応マニュアルを作成し、スタッフ全員が情報を把握できるように努めている。また、日々の状況や家族の方とのやり取りを支援経過に記載をしている。情報を共有し、継続したケアが提供出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族、面会者、その他その時の状況に応じ、共通のサービス以外も臨機応変に柔軟なサービスの支援に取り組んでいる。		

グループホームさくら（1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶のボランティアに来てもらう、小学校の運動会に招待されるなど、必要に応じて協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、本人、家族の希望も聞き、緊急時には家族にも連絡をしている。（連絡が後になる場合もある。）	家族や本人の希望に従い、受診は家族が付き添っている。診察結果は家族や本人から聞き、対応している。急変緊急時は協力医療機関と連携を取り適切な対応を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、隣の協力医療機関から看護師が巡回に来て健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が隣接しているので、急変時にはすぐに受診、相談し場合によっては入院するなど適切な処置をしている。入院中も家族や医療機関、主治医と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応方針を作成し、入居時に家族に意向調査をしている。職員、隣接する医療機関とも内容を共有して協力して対応できる体制にある。	隣接する医療機関との連携が日ごろからスムーズであり、症状にあわせて家族や関係者と話し合い対応している。職員も方針は理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の全体会議にて緊急時の救命法など講習会を適宜、開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での防災訓練を年2回行い、法人全体で避難活動ができるように防災計画を作成している。今年度は、夜間を想定した訓練を行った。職員の緊急連絡簿の見直しをして作成した。備蓄品の検討を行っている。	法人施設全体が殆ど一画にあるため、全体で防災マニュアルを基に年2回訓練し、相互で助け合えるシステムにして利用者の避難誘導を図っている。昼夜を想定した訓練や緊急連絡の見直し、一斉メールの利用や利用者家族の連絡などを再検討している。	訓練毎に評価を行い、課題が明確になることで実践力が増し、利用者の安全第一のシステムが活かされる。法人施設間の連携も非常に大切だが、今後、近隣の応援についても検討を期待する。

グループホームさくら（1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳という理念のもとにその人に合わせた対応や言葉かけをするようにしている。入浴は一人ずつ行ったり、トイレ誘導時の声かけ、居室でのオムツ交換などの羞恥心を考え声かけに気をつけている。	理念に沿って利用者一人ひとりの人格を尊重してトイレ誘導もさりげなく誘導している。話しかけられたら、ちょっと待ってとは言わず、すぐ対応する、目線を合わすなど話し合い、心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご飯の量やおかずの量、調味料の嗜好など、できるだけ自分で決められるように場面設定に努めている。茶話会などの時にはさりげなく食べたいもの聞くなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	浪曲が好きな入居者と一緒に浪曲を聞いたり、編み物を教えてもらったりスタッフが入居者からもたくさんのことを学ぶ場面を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に一度、美容師を頼み希望を聞きながら行っている。髪染めは本人希望でスタッフが手伝うこともある。くしや髭剃りなど身だしなみを自分でできるように居室に配置など環境整備に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を献立にとり入れている。皮むきや配膳などは入居者の能力・状態を把握し家事参加の支援を行っている。原則的には、食事は一緒に取らないが状況に応じて水分補給時や見守りが十分可能な場合に一緒に食べる時間を設けている。	メニュー作りから調理まで職員と利用者の共同作業で行っている。そして食事中はテレビのスイッチを切り、食することやテーブルを囲んでの会話などを大事にしている。献立調理のポイントは管理栄養士のサポートを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記載。組織内の管理栄養士の意見を参考にして栄養のバランスには気を配っている。夏場は特に、脱水・膀胱炎等の症状に注意し、しっかり水分が取れるようにこまめな水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、1日最低2回（朝・眠前）に見守りや声かけにより行っている。また、本人の希望や、義歯の状態により、近隣の歯科医師による往診体制も整い、その都度治療をおこなっている。		

グループホームさくら（1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを利用して、排泄パターンを把握している。それに応じて声かけや誘導をしている。下着・リハビリパンツ・紙オムツを夜間と昼間で使いわけ、オムツの使用を必要最低限度にするよう努めている。	排泄チェックを注意深く行い、声かけや誘導をしている。失禁ケアも声を発することなく個室に誘導して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行っており、状況に応じて水分摂取を多めにしたり、入浴時に腹部マッサージをしている。毎日牛乳を飲んで便秘の予防に努めている。内服にて排便のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりのプライバシーを守りながら行い、また、その入居者に合わせた入浴方法を取っている（湯の温度・回数など希望を聞いている）。また、汚染時はその都度入浴又はシャワー浴、陰洗、清拭等をして清潔を保持している。	ユニット毎に週3回は清潔維持のために入浴している。個々の利用者の好みに合わせた入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時、安眠しやすいように居室内の環境を整える。また読書や塗り絵などの個人作業や日中の集団レクリエーションの活動量を増やしたり、メンタル的にも夜に向けて安定するように雰囲気作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成し、薬についての把握をし、服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり何ができるのかを把握し、家事参加をしてもらっている。楽しみについては、以前、趣味で行っていたもの（手芸・園芸）を生活の中に取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い季節などは組織内の車を利用して外出の機会を増やしている。また、中庭などの散歩を個別に取り入れている。原則としては鍵をかけない。しかし、ホーム内で生活している方の安全を第一にやむを得ず、施錠をしなければいけないこともある。できるだけ開放できる時間を設けている。	季節や天候に合わせて外出や散歩を取り入れている。この夏は猛暑のため近隣の散歩程度で気分のリフレッシュを図った。	利用者の安全確保を第一に考えながら、外出による心の変化や身体への効果も考え、外出や散歩などの回数を増やせるような状況づくりに期待する。



グループホームさくら（1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者・家族と話し合い、必要な人は自己管理を支援している。また自己管理できない利用者には、個別に出納帳を作成し、必要な時にスタッフの支援のもと、買い物が出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に合わせて連絡するようにしている。連絡を希望された時は必要に応じて電話連絡をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量やまぶしさなどスタッフなどである程度調整しながらも、その都度確認している。声のトーンにも配慮している。トイレ・浴室などは分かりやすく表示している。入居者によっては、それぞれ部屋の入り口に分かりやすく工夫をして表示をしている。	明るくゆったりとした空間に大きなソファを配置し、自由にテレビ観賞や絵を描いたり、くみ紐を編んだりとそれぞれが居心地良く過ごせる場がある。壁面には利用者と職員の共同作業による作品を飾り調和している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを配置し、気軽に休息できるスペースを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込める家具類は基本的には自由であり、昔なじみの家具を持ってきている入居者もいる。	備品以外に利用者の好みに合わせた家具やカーテン、イスなど、家族の協力により自由に設置しており、利用者一人ひとり本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下には手すりを設置しており、台所も入居者の安全性を考えIHを設置している。外の物干しは、入居者の背丈を考えて、通常よりも低めに作っている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は利用者のその人らしい尊厳ある暮らしを支援するため、日々のケアの場面で共有し具体的な理念の実践に取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや老人会、自治会、文化祭、小学校の運動会などの行事に参加をしている。また、認知症の理解を広めるために介護教室を開いたり、郵便局での利用者の作品展は毎年恒例になっている。利用者の行事参加には体力やペースなどを考慮し意向に沿いながら地域との交流に努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会、ゲートボール大会の見学に行き、参加者にグループホームの理解を求めたり地域の溝掃除に参加し、交流に努めている。また毎年7.8月頃地元郵便局にて有隣会合同の作品展を開催している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの現状報告をしたり情報交換や参加者が意見や思いを伝える機会を設けている。運営推進会議で課題ができ、改善やサービス向上に活かせるように取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は、町の担当職員と運営推進会議以外にも、相談や意見交換をして、連携が取れる関係作りに努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解するように努め拘束のないケアをめざしている。徘徊、傾向の入居者がいるため玄関の施錠をしている。入居者の家族に理解してもらっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	さくらの中で高齢者虐待防止法について資料を配り、各自で理解を深めている。また、朝のカンファレンスなどで入居者対応（声かけのしかたは適切か？対応はきちんとできているか？）について話し合いをしている。

グループホームさくら（2）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護実践スタッフは順次研修会等に参加し、知識を深めるように努力している。また、相談があったときには近隣の介護支援事業所に相談できる体制にある。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前には必ずホームの見学をしていただき、十分に説明を行い理解・納得してもらっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時や家族会等の集まる機会に意見・要望などをアンケートで聞くようにしている。また、些細なことでも、スタッフの対応について話し合いホームの質の向上に努めている。苦情・相談窓口を設置し、24時間体制で対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや必要時にはスタッフ間で臨時のカンファレンスを開くようにしてスタッフの意見を聞けるように配慮している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2カ月に1回の法人内で有隣会全体会議があり、その中で随時研修を行っている。また年間計画書を作成し、職種に応じて適宜研修に参加している。新人研修についてもチェックシートを活用して管理者と職員で意見交換しながら取り組んでいる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1回の法人内で有隣会全体会議があり、その中で随時研修を行っている。また職種に応じて適宜研修に参加している。新人研修についてもチェックシートを活用して管理者と職員で意見交換しながら取り組んでいる。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の主催する介護教室などに参加し、サービスの質の向上に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には必ずホームの見学をしてもらい、また、管理者、計画作成担当者が必ず訪問し、さくらでの生活の意向を家族、本人から聞き入れるようにに努力している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ずインテークを行い、意向を聞き入れている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学、インテークにて、また、場合によっては他の事業者のケアマネージャーとも連携し、さくら入居が本当にふさわしいかを見極めている。さらに入居判定委員会を必ず開催し、他職種から意見を聞き入れている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが入居者の悩みを聞いたり、表情が暗い時には居室におもむき話を傾聴するなど、寄り添いながら生活するように心がけている。また、お寿司の作り方などをスタッフが逆に相談にのったりなど、双方で支えあって生活している。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や季節などに参加してもらうなどして馴染みの関係を築き、なにかあればすぐに電話で相談するなど、本人と共に支えていく関係にある。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望に合わせて連絡するようにしている。連絡を取りたそうにしている時はスタッフから声かけして連絡を取っている。また、外出の時など昔住んでいた近隣をドライブするなどして配慮している。面会時の対応の支援を行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が孤立しないように一日何回か、集団体操やレクリエーションを取り入れ、閉じこもり、孤立を予防している。また、おやつや食事などなるべくホールで摂ってもらうようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も時々電話連絡をして、状況を聞いている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新聞が読みたい入居者には家族と相談の上、新聞を配達してもらうなど、入居者の意向を柔軟に聞き入れ対応している。また、預かり金から、欲しいものを聴き、購入し、趣味で使う道具やお菓子などスタッフが購入してくることもある。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の状況は入居前にきちんと把握するように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時カンファレンスなどで利用者の嗜好品や趣味などについて話し合っており、出来ることを見つけて少しでも参加してもらうように取り組んでいる。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やミニカンファレンスなどを設け、本人やご家族の意向を取り入れ、その都度検討しながら、柔軟に対応している。毎月のモニタリング、6カ月ごと、又は随時アセスメント表を用いて、ケアプランの見直しに活かしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個別対応マニュアルを作成し、スタッフ全員が情報を把握できるように努めている。また、日々の状況や家族の方とのやり取りを支援経過に記載をしている。情報を共有し、継続したケアが提供出来るように努めている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族、面会者、その他その時の状況に応じ、共通のサービス以外も臨機応変に柔軟なサービスの支援に取り組んでいる。

グループホームさくら（2）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶のボランティアに来てもらう、小学校の運動会に招待されるなど、必要に応じて協力しながら支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、本人、家族の希望も聞き、緊急時には家族にも連絡をしている、（連絡が後になる場合もある。）
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、隣の協力医療機関から看護師が巡回に来て健康管理をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が隣接しているので、急変時にはすぐに受診、相談し場合によっては入院するなど適切な処置をしている。入院中も家族や医療機関、主治医と連携している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応方針を作成しており職員、隣接する医療機関とも内容を共有して協力して対応できる体制にある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の全体会議にて緊急時の救命法など講習会を適宜、開いている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での防災訓練を年2回行い、法人全体で避難活動ができるように防災計画を作成している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳という理念のもとにその人に合わせた対応や言葉かけをするようにしている。入浴は一人ずつ行ったり、男性スタッフの入浴介助に抵抗ある方には、それなりの対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご飯の量やおかずの量、調味料の嗜好など、できるだけ自分で決められるように場面設定に努めている。茶話会などの時にはさりげなく食べたいもの聞くなどしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	浪曲が好きな入居者と一緒に浪曲を聞いたり、編み物を教えてもらったりスタッフが入居者からもたくさんのかんことを学ぶ場面を作っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、美容師を頼み希望を聞きながら行っている。髪染めは本人希望でスタッフが手伝うこともある。くしや髭剃りなど身だしなみを自分でできるように居室に配置など環境整備に努めている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を献立にとり入れている。皮むきや配膳などは入居者の能力・状態を把握し家事参加の支援を行っている。原則的には、食事は一緒に取らないが状況に応じて水分補給時や見守りが十分可能な場合に一緒に食べる時間を設けている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記載。組織内の管理栄養士の意見を参考にし栄養のバランスには気を配っている。夏場は特に、脱水・膀胱炎等の症状に注意し、しっかり水分が取れるようにこまめな水分補給に努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、1日最低2回（朝・眠前）に見守りや声かけにより行っている。



グループホームさくら（2）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを利用して、排泄パターンを把握している。それに応じて声かけや誘導をしている。下着・リハビリパンツ・紙オムツを夜間と昼間で遣いわけ、オムツの使用を必要最低限度にするよう努めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行っており、状況に応じて水分摂取を多めにしたり、入浴時に腹部マッサージをしている。毎日牛乳を飲んで便秘の予防に努めている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりのプライバシーを守りながら行い、また、その入居者に合わせた入浴方法を取っている（湯の温度・回数など希望を聞いている）。また、汚染時はその都度入浴又はシャワー浴、陰洗、清拭等をして清潔を保持している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別安眠剤を検討。読書を進めたり、声かけに配慮したり活動量を増やしたり、メンタル的にも夜に向けて安定するように雰囲気作りをしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成し、薬についての把握をし、服薬を支援している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり何ができるのかを把握し、家事参加をしてもらっている。楽しみについては、以前、趣味で行っていたもの（手芸・園芸）を生活の中に取り入れるようにしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い季節などは組織内の車を利用し外出の機会を増やしている。また、中庭などの散歩を個別に取り入れている。原則としては鍵をかけない。しかし、ホーム内で生活している方の安全を第一にやむを得ず、施錠をしなければいけないこともある。できるだけ開放できる時間を設けている。

グループホームさくら（2）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者・家族と話し合い、必要な人は自己管理を支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に合わせて連絡するようにしている。連絡を希望された時は必要に応じて電話連絡をしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量やまぶしさなどスタッフなどである程度調整しながらも、その都度確認している。声のトーンにも配慮している。トイレ・浴室などは分かりやすく表示している。入居者によっては、それぞれ部屋の入り口に工夫をした表示をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを配置し、気軽に休息できるスペースを配置している。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込める家具類は基本的には自由であり、昔なじみの家具を持ってきている入居者もいる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下には手すりを設置しており、台所も入居者の安全性を考えIHを設置している。外の物干しは、入居者の背丈を考えて、通常よりも低めに作っている。